



吉川英梨

第5回より、去年の3月に行われた海上保安友の理事会の様子をお伝えしています。今回もです。「まだ引っ張るのか!」とおっしゃらず、少々お付き合いください。

さて、各種訓練終了後に横浜海上防災基地の棧橋へ。目の前にドーンとそびえる巡視船は、PLH32あきつしま。みなさんご存じ海保最大の巡視船です。一般公開されることはほとんどないという船内へ特別に案内していただきました。

大きい船、中の構造もとても複雑。まるで迷路のようです。細く急な階段を上り下りするだけで、日ごろ机にかじりついて指だけで仕事をしている私は、

作家脳をくすぐる「あきつしま」船内

息切れしてしまいます。しかも吹きさらし……。ちらりと下を見たら、最後。

ひえー。高い。

甲板の遥か下にある岸壁と、岸壁と船体の隙間に波打つ海面を見て、ぞっとしてしまいます。隙間でうねりを上げる波が、自分を引き込もうとする怪物の触手にすら見えてしまいます。

私、実をいうと、階段を下ることがとても苦手なんです。上るのは平気なのですが、自宅の階段でもしょっちゅう足を踏み外します。駅の階段で転んだ回数は両手の指では収まらないほど。階段を下りながら考え事をしたり、定期券を出そうとしたり、なにか別の作業をしようとする、途端にどちらの足を出しているのかわからなくなるという、極端な『階段下りるの苦手症候群』なのです。(※架

巡視船「あきつしま」



空の症候群です)

階段だらけのあきつしまの船内でも緊張が高まります。

(いまここで階段から落ちたら、理事デビューというこの華々しい日に、一生海保で笑い種にされる……いや、それどころか、岸壁に叩きつけられるか……いやいや、岸壁と船体の隙間の海面に落ちて、挟まれてペ

ちゃんこになるか。前に行くあきつしま船長を巻き込んで大惨事となり、あきつしまをいわくつきの船にしてしまうんじゃないか……あ、これ小説のネタで使える?)

作家です、日々、なにかを妄想していることが多いので、この日もついあれこれ考えてしまいました。あきつしま船長のせ

っかくの説明がたびたび、右から左へ……。(大変すみません)

船内の行く先々で、若い乗組員の方々が挨拶をしてくださいました。狭い通路も、急な階段も、吹きさらしの高い場所も、段差だらけの船内も、海上保安官はひゅうっと風の如き速さですり抜けて仕事をしているのでしょうか。緊急出港のかけ声がかかったときの姿などを想像し、またしてもあきつしま船長の説明を聞き逃してしまうという……。

いま改めて、あきつしまに乗った時のことを思い出そうとしても、正直、なんにも出てきません。申し訳ない。代わりに、乗船中に頭をもたげた妄想だけが蘇ります。

さすが、巡視船あきつしま。作家脳をこれほどくすぐる船はほかにないでしょう。

(つづく)

階段だらけ…ここから落ちたらどうなるか?